


# コロナ禍及びその後の時代における 社会福祉の対応と役割

- 新しい常態と福祉テクノロジー

イム ジョンウォン  
江南大学社会福祉学部教授



# 内容

- ▶ コロナ後の新しい常態
- ▶ コロナ禍の時代と社会福祉分野
- ▶ 福祉テクノロジーによる社会福祉サービスのイノベーション
- ▶ 社会福祉における福祉テクノロジーの役割

# 韓国における社会連帯とは

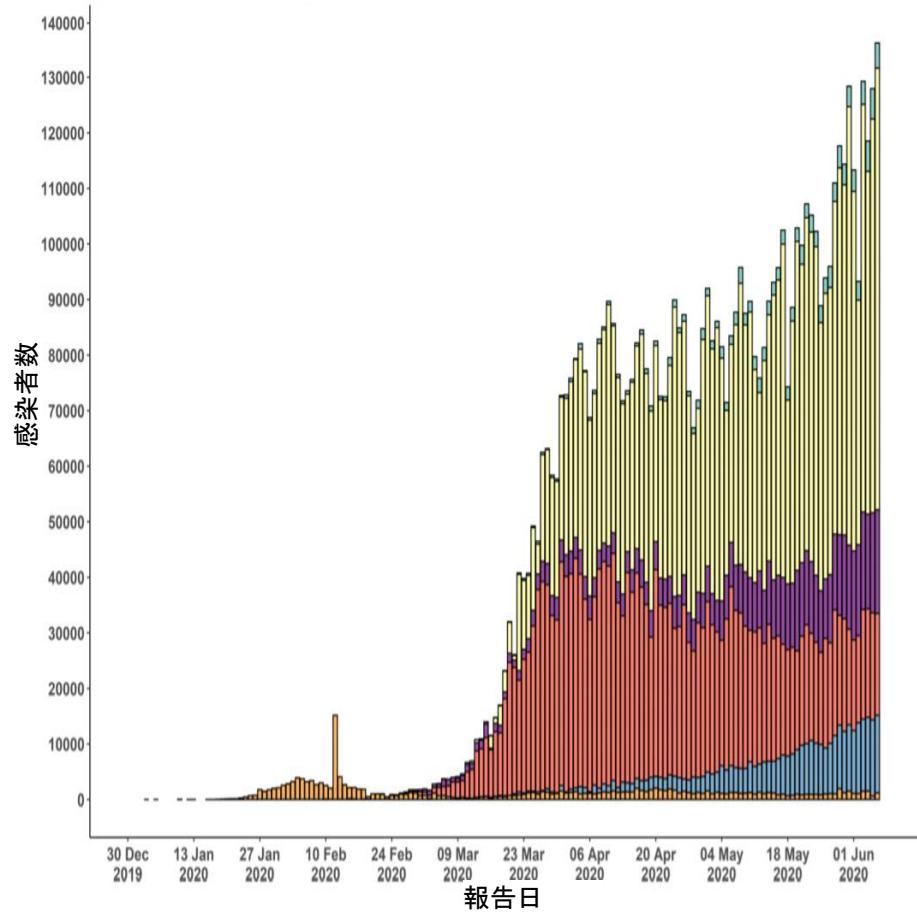
- ▶ 福祉国家とは、国が全ての人々の生活の質に責任をもつ国家
- ▶ 福祉国家の中心に社会連帯が存在
  - ▶ 人々の尊重
  - ▶ 人々の尊厳
- ▶ 福祉国家の実現には、原理と全ての人々の価値に関するパラダイム転換が必要
  - ▶ 社会連帯があれば可能



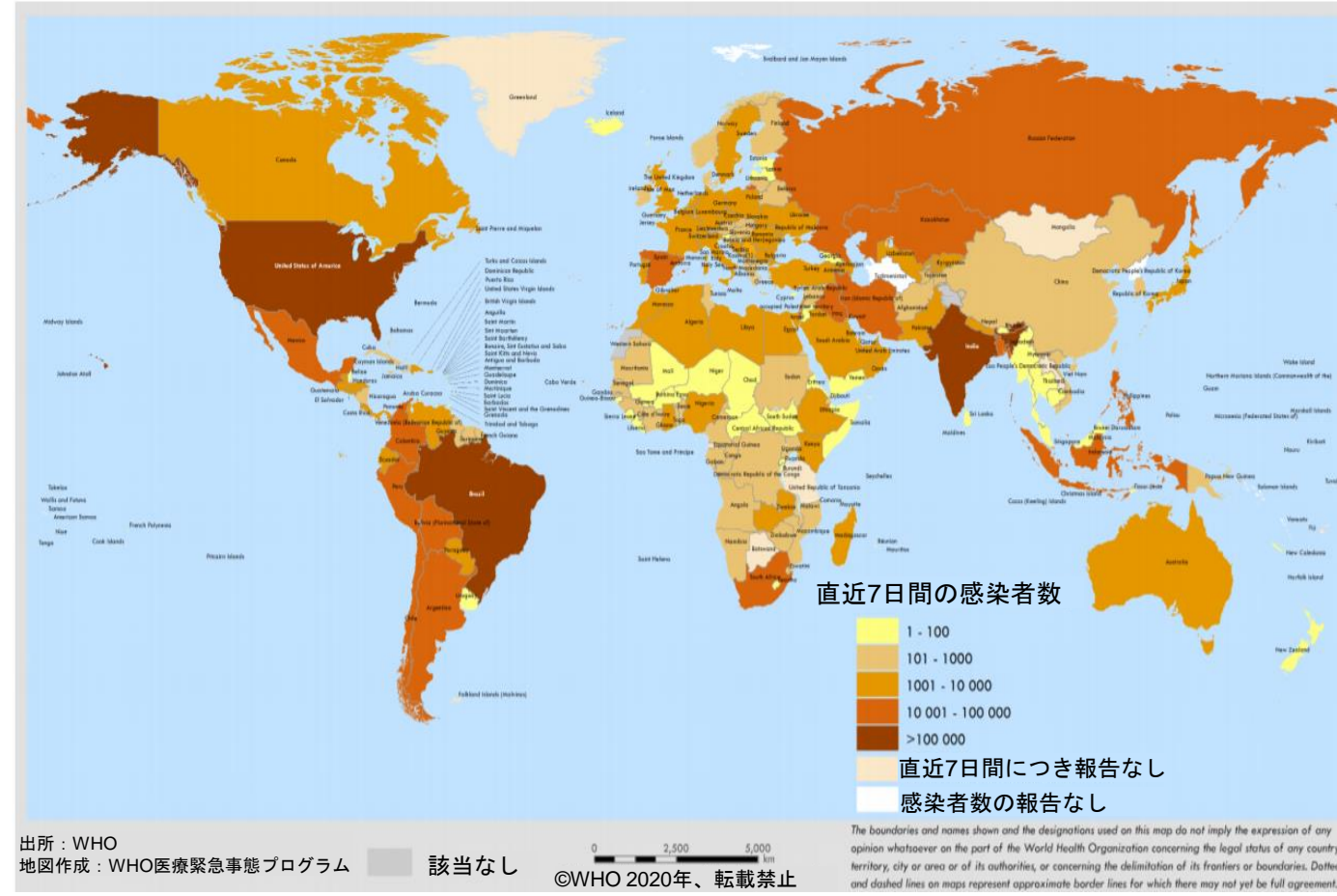
# コロナ禍



図表2：COVID-19感染者数（報告日・地域別、2019年12月30日～2020年6月7日）



図表2：直近7日間（8月4日～10日）のCOVID-19感染者数（国・領土・地域別）



# コロナ後の新しい常態の時代

新しい常態：通常とは異なるが、長期的な影響が見込まれ、今後はそれが基準となる状況・行動・状態

## ■ 非接触型・オンラインサービスの加速

- コロナ後は、従来の接触型サービスから非接触型サービスへの移行により、オンライン化
- ICTの活用による個別化・デジタル化

## ■ 脱グローバル化による自国中心型のエコシステムの構築

- 国際的な分業を活用する効率性に価値をおく考え方から、災害から自国を守るための供給安定に価値をおく考え方への移行

# 新しい常態の時代の拡大産業 1

- オンラインサービスと配送業の拡大
  - ICTとAI技術を活用した非接触型サービスの普及
- ICTを活用したデジタルコンテンツ産業の拡大
  - オンライン動画配信サービス産業の成長
  - 個室で映画やドラマなどのコンテンツを楽しめるオンライン・ストリーミング・プラットフォームの優先
- 遠隔治療の拡大とスマート医療サービスの成長
  - 遠隔治療という非接触型サービスの活用が本格化
  - 医療産業パラダイムは、治療中心型から予防・診断中心型への移行が可能
  - ARやVRなどのスマート医療産業が成長

# 新しい常態の時代の拡大産業 2

## ■ 教育テクノロジーとテレビ会議関連産業の急成長

- AI、AR、VR、IoTなどのEラーニングツールを積極的に活用し、効果的な教育コンテンツの確保
- テレビ会議



コロナ禍は社会連帯に影響を与えたか？

# ○ ○ ○ コロナ禍においてソーシャルワーク分野 ○ ○ ○ の効率性の阻害要因

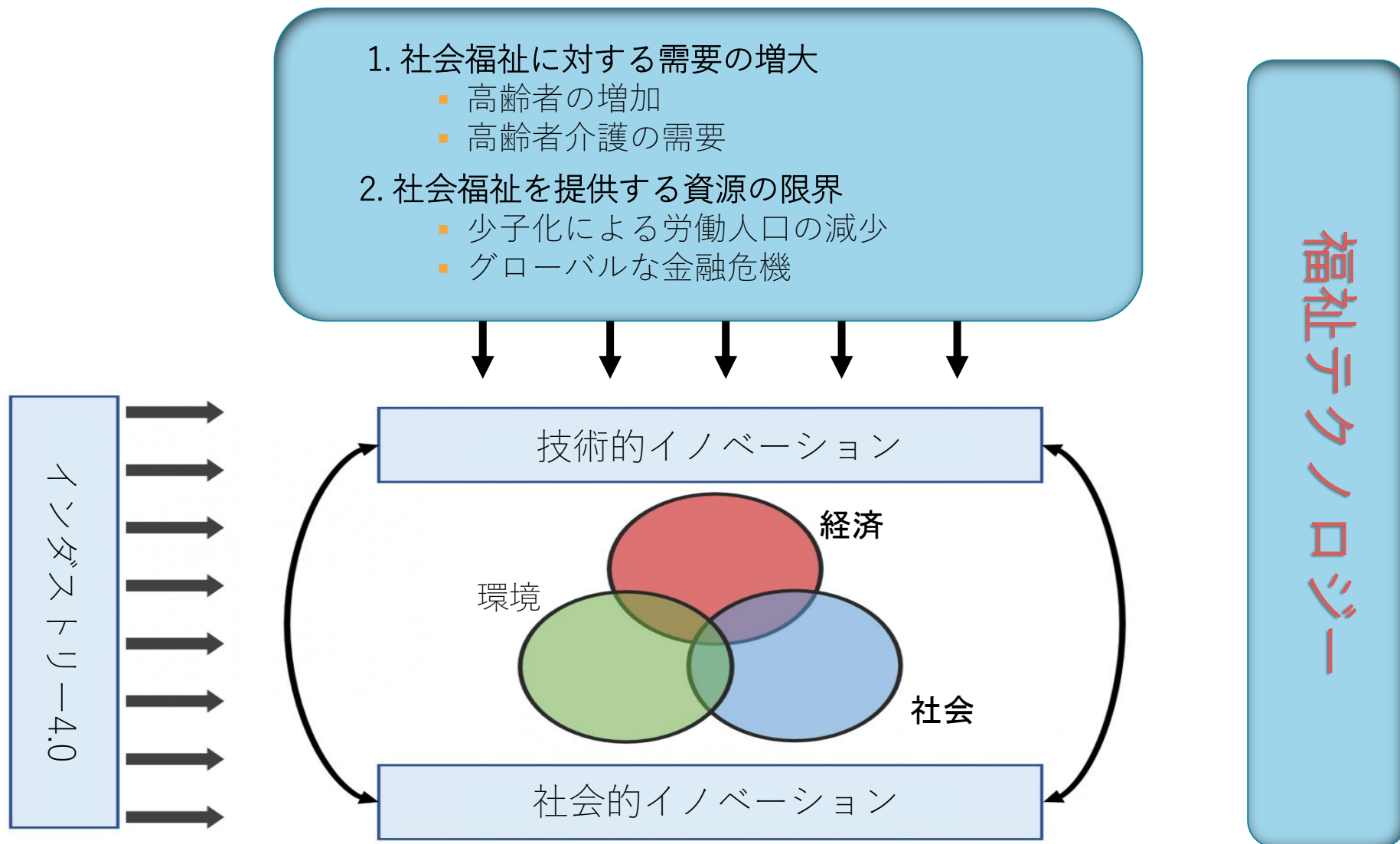
- クライアントに対する直接・接触サービスであることに起因するサービスの非効率性
- クライアントの参加を推進するサービスシステムの利用が不十分
  - ソーシャルワークに関連する情報の入手しにくさ
  - サービス提供者側重視の情報・サービス提供
- 膨大な事務作業によるサービス格差の発生



# 新しい常態の時代に適応するための条件

1. コロナ禍の予測可能性・継続性について理解が不十分な状況下で、サービスを停止ではなく、プランBの策定
  - ▶ いかに社会連帯を推進することができるか？その方法は？
2. 非接触型サービスとデジタル能力の向上
  - ▶ 社会福祉分野においてデジタル能力の強化
  - ▶ 社会連帯の推進を図るスキル・教育の開発
3. 大規模施設から小規模施設への転換
  - ▶ 強固なネットワークを基盤とする小規模コミュニティシステムの構築
  - ▶ 小さくても強いコミュニティ能力の強化

# 社会の変化と福祉テクノロジー



# 福祉テクノロジーとは

出発点：多様な技術的な解決策

人口動態的・社会的・グローバルな課題

特殊な技術



複雑な社会問題

技術的イノベーション

社会的イノベーション

福祉テクノロジー

今後の韓国社会において予想される急激な変化（超高齢社会、根本的な技術転換など）の中での生きにくさを最小化するために、通信・ネットワーク化にICTを活用するよう福祉サービスのイノベーション

# コロナ後の福祉テクノロジー

- ▶ 非接触ツールを活用し、個別的・統合的サービスを提供するためのスキル
  - ▶ 心身両面の健康をモニタリングすることにより、社会福祉サービスを利用するクライアントへの事前対応
  - ▶ オンライン緊急・社会福祉情報を提供することにより、多様な福祉サービスの提供
  - ▶ 自ら解決し、自身のニーズと状況を考慮して適切な社会福祉サービスを選択できるクライアントの能力向上によってQOLの上昇
  - ▶ コミュニティにおいてクライアント同士を結び付けるサービスを調整することにより、社会問題の解決に役立つより多くの機会の提供

# コロナ後の福祉テクノロジー

- ▶ クライアントの問題を解決する福祉プラットフォームの確立
  - ▶ 福祉プラットフォームを活用してクライアントのニーズを聴取し、関連情報を分析することにより、サービス提供の基盤を整える
- ▶ リビングラボを活用してサービス効果の検証
  - ▶ サービス提供者・利用者が共に参加することにより、スマートなシステムとプラットフォームを開発する必要と社会連帯の強化

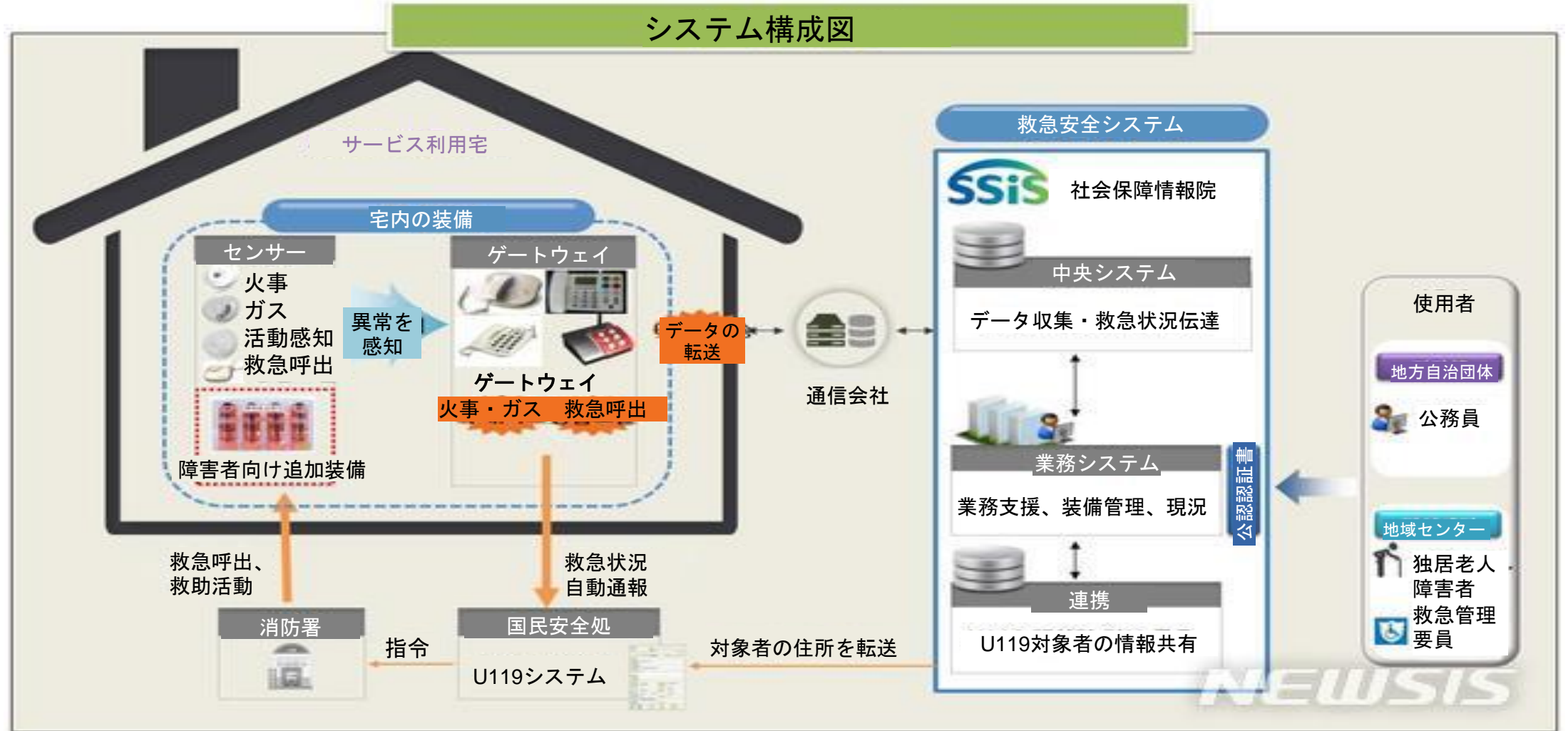


# 社会福祉分野における福祉テクノロジー：今と今後

# 一人暮らし高齢者のための 緊急・安全警報サービス



システム構成図



NEWSiS

# メンタルヘルス・認知症予防プログラム



## 精神健康テスト、認知症編&ストレス編&うつ症



- 時間の見当識 (5点)
- 場所の見当識 (5点)
- 見当識 総点10点
- 記憶力 (6点)
- 計算力 (5点)
- 記憶及び計算能力 総点11点
- 名前合わせ (2点)
- 真似しておしゃべり (1点)
- 理解及び判断能力 総点9点
- 実行能力 (3点)
- 構成能力 (1点)
- 読み能力 (1点)
- 理解判断 (1点)s

総点30点



精神健康テスト(メンタルヘルステスト)とエンブレイン(Enbrain)は個人向け又は機関向け製品で提供されます。機関向け製品の場合、ウェブで利用できます。



## 認知リハビリテーションプログラム エンブレイン-アプリ・タブレット・PCバージョン/B2B, B2C



VRコンテンツの活用



認知症の高齢者

認知リハビリテーションを必要とする人

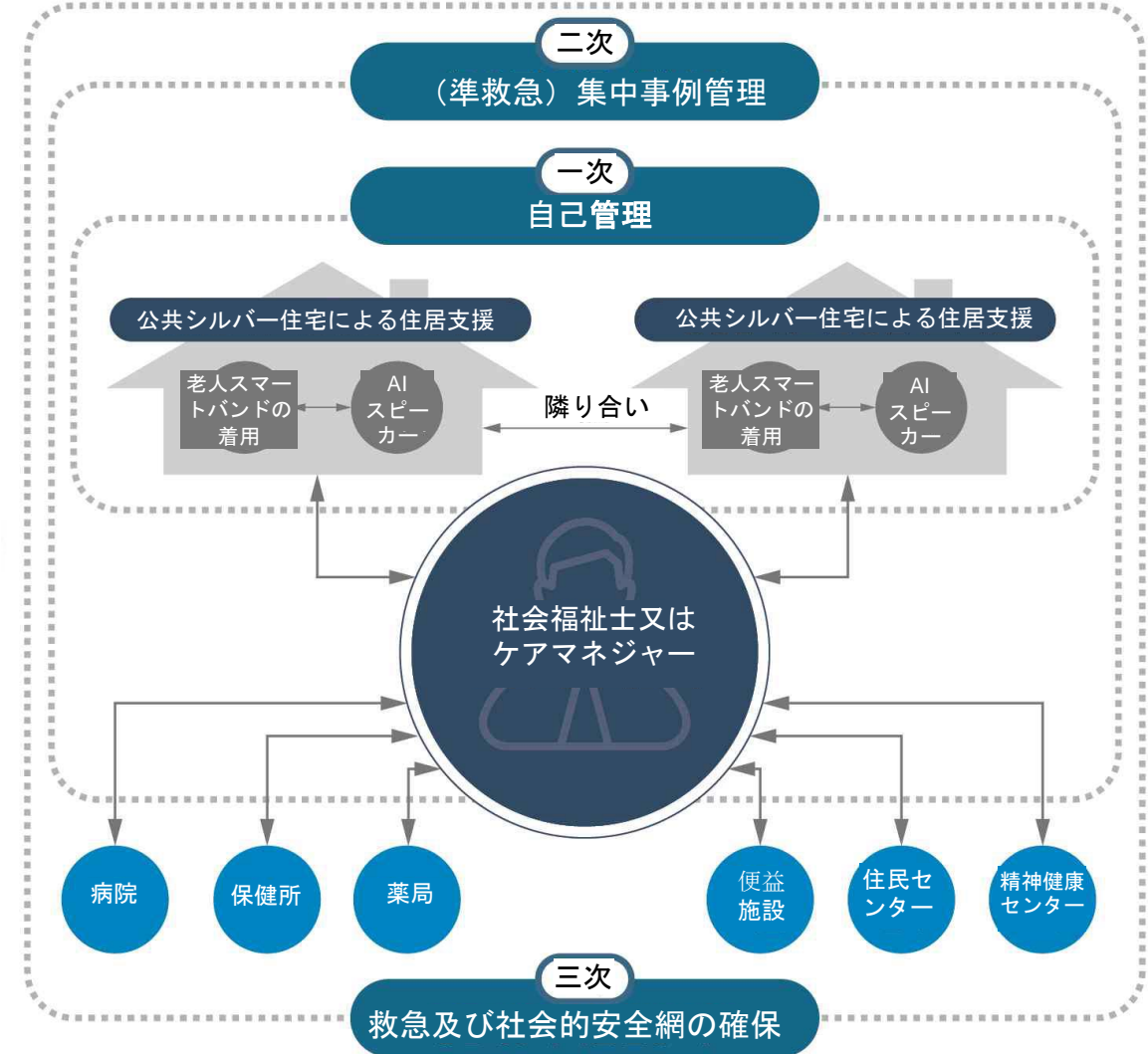
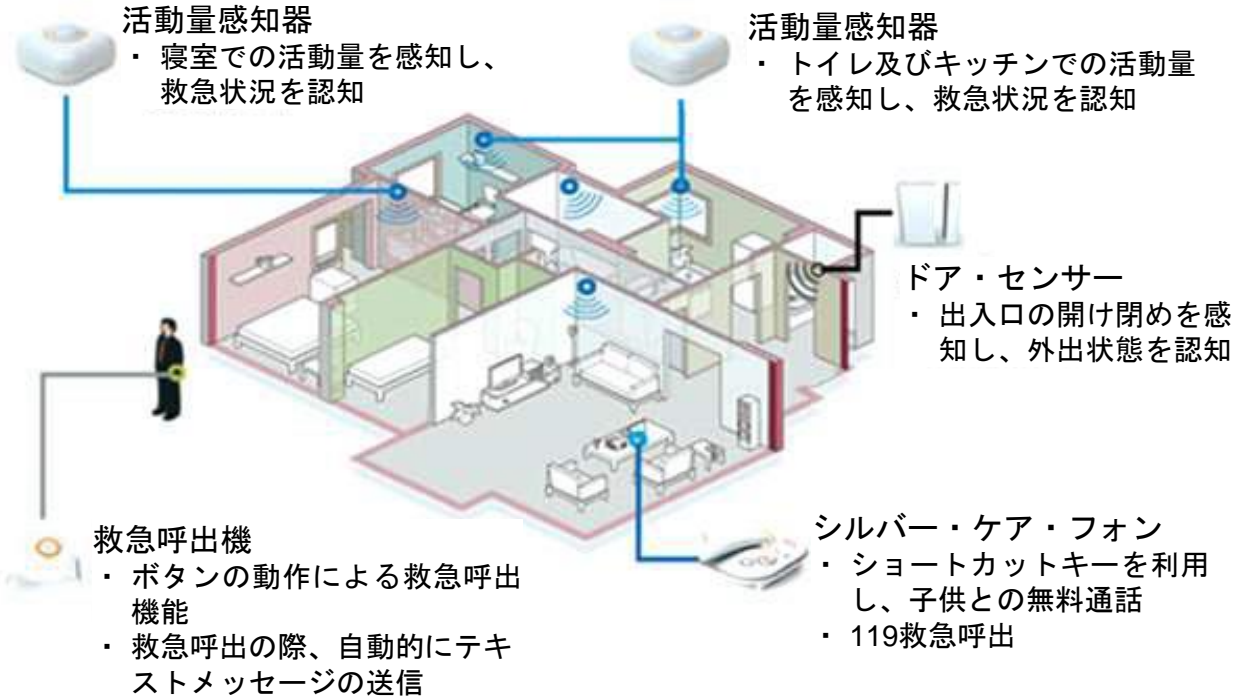




# マジック・ハッピーテーブル



# 福祉テクノロジーを基盤とした コミュニティケア・モデル



# 福祉テクノロジーのリビングラボ

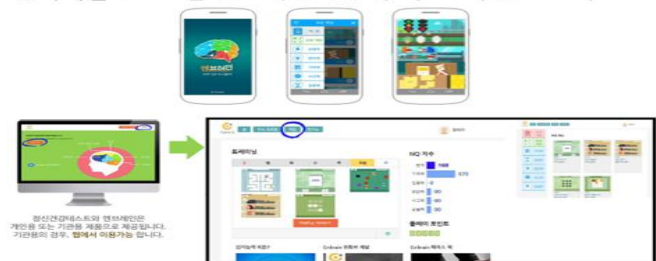
官



産



인지재활프로그램 엔브레인-앱, 패드, PC버전 / B2B, B2C



学



- 高齢者の認知機能を維持するために福祉テクノロジーの活用
- 産学官の連携システム

# コロナ後の時代における社会福祉の課題

- ▶ 福祉テクノロジーを活用し、社会福祉の死角を発見するための事前対応
- ▶ 福祉テクノロジーを活用し、社会福祉サービスのイノベーション
- ▶ 非効果的・非効率的なサービス提供システムの変革
- ▶ コロナ禍からの回復に向けてオンライン共有型文化活動
- ▶ オンライン及びオフラインの教育プログラムの開発・普及
- ▶ 社会福祉事期間においてモニタリング・危機管理支援システムの構築
- ▶ 社会連帯を促す提供者・利用者間の協働システムの構築

ありがとうございました。

